

Living the Lotus

8

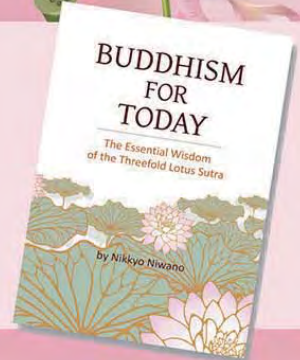
Buddhism in Everyday Life

2024
VOL. 227



「北米英語幹部教育」開催

ロサンゼルス教会に新英訳『法華経の新しい解釈』翻訳者
ドミニク・スケランジェロ博士を迎え法華経を研鑽



Living the Lotus Vol. 227 (August 2024)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537
東京都杉並区和田2-7-1 専門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224
E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp
編集責任者: 赤川 恵一
編集チーフ: 三川 紗知
校閲者: 小坂 和正、菊池 克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life (法華経を生きる～生活の中の仏教) というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

「故郷」に帰る私たち

庭野日鑑
立正佼成会会長



開祖さまのご入寂

最古の仏教思想を伝えるといわれる「スッタニパータ」の、「田を耕すバーラドバージャ」と題する一節のなかで、釈尊がバラモンに対して述べられた詩偈を、私は拙著『心田を耕す』においてご紹介しました。今年の本欄では、その詩にそって私たちの精進や心のあり方を考えてきたわけですが、詩の終盤に「耕作はこのようになされ、不死の実りをもたらず」とあります。その流れで先月、私たち人間の生命についてお伝えした最後に、私は「不死」とは何を意味するのかと、みなさんに問いかけました。そこで、まずは死に対する率直な考えを述べてみたいと思いますが、その前に開祖さまの臨終の際の様子をお話しします。

平成十一年十月四日の午前十時三十四分に、師父でもある本会の庭野日敬開祖がその生涯を閉じました。きょうだいや家族が開祖さまのベッドを囲み、教団の方々がやや遠巻きに見守るなかでの、静かな旅立ちでした。私は直前まで、目をつぶって床につく開祖さまの右手を握っていたのですが、開祖さまが閉じていた目を大きく見開いて、ベッドを囲む私たちを、まるで一人ひとりと別れのあいさつを交わすかのようにゆっくりと見まわし、再び目を閉じたつぎの瞬間、気がつけば、開祖さまは息を引きとっていたのでした。

「不死」とは——

「ふるさと／そこから出てきた私／ふるさと／それは私の還^{かえ}って／いくところ」(東井義雄)。私が昔から愛誦^{あいしやう}している詩です。先月述べたように、私たちの生命^{いのち}は、過去から永遠の未来へと大河のように滔々^{たいが}と流れつづける「大いなるいのち」という「ふるさと」に帰っていく——そのように受けとめると、死に対する不安^{やわ}が和らぐように思います。

さらに私についていえば、安らかに生命^{いのち}の故郷^{ふるさと}へ帰っていった開祖さまの姿を見届けたことで、「ああ、あのよう^いに死んでいけたらいいなあ」と、落ち着いた気持ちで死を受けとめられるようになった気がします。私には理想にも思える開祖さまの最期^{さいご}のありようが、死への恐れを乗り越えるという意味の、「不死の実り」を与えてくれたのです。

「不死」とは、死なないことではありません。いつまでも生きていたいといった、けっしてかなうことのない儂^{はかな}い望みがもたらす苦から解き放たれて心が楽になること、それを「不死」といい、「不死の実り」と私は受けとるのです。

そして私たちは、仏の教えを学ぶことで、現実に「不死の実り」を手に入れることができます。その一つは、無常^{むじやう}の教えを心に刻^{きざ}み、死を乗り越えるということです。死も、生滅^{しょうめつ}変化する自然の営^{へんか}みの一つと得心^{とくしん}することです。また、法華^{ほけきやう}経において「仏のいのちは永遠^{ぶつじゆむりやう}」(仏寿無量)と説かれています。その認識に立てば、仏性^{ぶつしやう}そのものといえる私たちは死んでもなお、仏の「大いなるいのち」と一つになって永遠に生きつづけるという安心が得られます。さらに法句^{ほくくじやう}経では、「つとめ励むのは不死の境地である」と教えています。日常の小さなこともおろそかにしないで重ねた精進^{しやうじん}は、「幾多^{いくた}の因果^{いんが}の連鎖^{れんさ}によって影響は無限にひろがり、死ぬことがない」(中村元^{はじめ})というのです。

菩薩^{ぼさつぎやう}行をはじめとする私たちの日ごろの行ないが、時間や空間を超えてどこまでも影響を与えつづけるということです。また、そうした生前の生き方や人柄^{きやうちゆう}が人びとの胸中で生きつづけることも、「不死」の一つの形だと思えます。

おかげさまで、釈尊^{しゃくそん}が入滅^{にゆうめつ}された齢^{とし}を六つも越えさせていただきたいま、私が開祖^{にゆうじゃく}さまの入寂^{にゆうじゃく}や「不死の実り」の味わいを知って思うのは、「いつ故郷^{ふるさと}に帰ってもいい」と心おだやかに話^わしできる、この幸せにほかなりません。



(『佼成』2024年8月号)

Interview

後ろ姿で人さまを導ける人間になりたい

台南教会 ロ コンイン
羅 公英

どのようなきっかけで信仰をするようになったのですか？

私の信仰の原点についてお話しますと、義母と妻（胡怜身＝フー・レイシン＝台南教会長）が立正佼成会の信仰をしていたのですが、私自身は当初、義母を教会に車で送り迎えをする程度で、あまり信仰にかかわることはありませんでした。しかし、その後、義母や妻が寒修行や教会行事に精進する姿や信仰心の深さを目の当たりにするうちに少しずつ導かれて、立正佼成会の教えにふれるようになっていきました。

何か転機はあったのですか？

私はもともと仏教を信仰していて、以前は台湾で馴染みのある阿弥陀経を上げていました。しかし2015年9月、妻と一緒に大聖堂でのご本尊の勧請式に参加してから法華経を上げるようになりました。そして、朝夕に経典を読誦するだけでなく、日増しに法華経の教えを学びたいと思うようになったのです。その機縁のお陰で法華経の深遠さ、有り難さに気づくことができ、また多くの学びをとおして自分自身の人格や道德心の向上にもつながってきたと感謝しています。そして、本当の自分を知り、心の拠り所を見つけることができました。その意味からも、ご本尊勧請は私の人生における最大の転機となったと思います。

法華経の中で心の支えにしている教えはありますか？

法華経の従地涌出品に地涌の菩薩のリーダーとして、上行・無辺行・浄行・安立行という四大菩薩の働きについて説かれています。私は日頃、この四大菩薩を心の支えにしています。なぜかという、四大菩薩は末法の世で法華経を広めるために、一切衆生を救おう、すべての煩惱を断ち切ろう、仏さまの教えをすべて学び尽くそう、仏道を行じて無上の悟りを得ようと誓願を立てた菩薩であり、この四弘誓願は佼成会の法座における修行の方針だと思うからです。私たちは、常に柔和忍辱、慈悲の心を持つことを怠らずに、一切衆生に「阿耨多羅三藐三菩提の心を起さしめる」ことが大切と教えていただいています。

また、「自ら未だ度らざる先に他を度す」（道元禅師）とい



2015年、妻の胡怜身主任（現在は台南教会長）とご本尊の勧請式に参加して

うお言葉がありますが、自分よりも相手の幸せを願い、煩惱を断ち、清らかな心で修行し、自らの心田を耕していきたいと思っています。そのように限りない慈悲の心で修行すれば、仏さまの悟りを得ることができると信じています。そして、「上求菩提・下化衆生」（自分の悟りを求めて修行しつつ、同時に周りの方々の救いに尽力する）の心を大切にしています。それらはすべて佼成会の法座修行の中で具現化されているように思えてなりません。

法華経の教えをととても深く学ばれているんですね。

2018年6月に教師資格を拝受してから、私はそれまで以上に法華経の教えを学びたいと思うようになりました。会長先生のご法話をとおして法華経の内容や意味を深く理解させていただき、そのご法話に基づいて教会長が体験

や例え話を交えて、教えを平易にかみしめてくれることがとても有り難いと思っています。そして、日常生活の中で教えを学んでは実践し、また実践することで学びを深めるという「行学二道」の両立に励むことの大切さに気づきました。

また、校成会の教えは人生において単に苦を解決するだけではなく、苦を智慧の源にすることだと教えていただきました。さらに人さまに教えを伝える時、決して自分の考えを押し付けたり、主観で教えを伝えたりするのではなく、最も大事なものは目の前の縁から学ぶ姿勢、相手をとおして自分自身の心を成長させていくことであると学びました。

手どりやお導きをとおしての体験を聞かせてください。

私はこれまで15人の方をお導きさせていただきました。その中の一人で知人のAさんは、同じ仏教を信仰していたのですが、それほど仏教の内容を理解しているわけではありませんでした。ですから、私が校成会の教えを伝えることで、仏教とはお経を上げ、教えを学ぶだけではなく、日常生活の中で教えを生かし、応用できることを知ってもらいました。入会后、Aさんに多くの変化がありました。例えば、以前は自分のことで精いっぱいだったのですが、最



2018年に教師授与式に参加した羅さん

近ではたとえ仕事が忙しくても人さまのために時間を使ってくれるようになり、他者に尽くす実践をとおして自らの心田を耕す努力を続けています。

ところがある時、Aさんが私との大事な約束を守らなかったことがあり、そのことを指摘した私は、結果としてAさんの心を傷つけてしまったことがありました。そのAさんとのかわりをとおして、諸法無我や諸行無常の真理を理解し、自分の至らなさを懺悔するとともに、人や物事に対して柔和な心を持つことの大切さに気づかせていただきました。

立正校成会の魅力はどのようなところだと思いますか？

立正校成会では常々、法座がいのちと教えていただいています。私も法座がいちばんの魅力だと思っています。法座修行では自分が抱える悩みをありのままに吐露し、それを法座主が法に照らして結び、救われの道へと導いてくださいます。そして、法座に参加する人たちも人の話や悩みを自分のこととして真剣に受け止め、共に喜び、共に悲しむという共感をととても大事にしています。



台南教会でのご供養で鐘のお役を務める羅さん

また私たちは日頃、身近な人に対してなかなか感謝ができないものですが、佼成会では最も身近な家族に対して感謝することを教えてくださっています。家族がお互いに尊敬し合い、感謝し合うことによってこそ家庭が整い、本当に平和な家庭が築けるのだと思います。

最後に今、願っていることや今後の目標を聞かせてください。

私のいちばんの願いは妻が教会長在任中は、その使命を全うできるように微力ながら陰から支えていくことです。現在、私は毎朝5時に起床し、ご供養をとおして仏さまと対話をさせていただいています。日々、仏さまとの対話の中で自らを内省し、仏さまの声や願いを聴くことによって得られる多くの気づきや功德をご先祖さまや諸精霊に、さらには世界中で起きている災害や戦争によって犠牲になられた方々へ回向し、現在の混乱の世界が少しでも平和になればと祈りを捧げております。また、一人の人が100パーセン

トなんでもやるのではなく、例えば100人いたら一人一人が1の力を出し合うことで100の力になり、それがやがてさらに大きな力となって、法華経に説かれる「通一仏土」の世界が実現するのだと思います。

そのためにも台南教会の会員の皆さんには、この素晴らしい法華経を学び、家庭や職場、地域社会の中で教えを实践することによって、泥沼に咲く蓮の花のように一人一人が心の中に清く美しい花を咲かせ、人生を力強く生きていってほしいと願っています。私自身としては今後も地道に修行を重ね、私が行動する姿を見た人から「何の信仰をしているんですか」と尋ねられたら、「立正佼成会の信仰です」と堂々と答えられる自分になれるよう精進したいと思います。理想は高いかもしれませんが、後ろ姿で人さまを導いていけるような人間になりたい——それが私のこれからの修行目標です。



2023年7月1日、娘の結婚式の会場で家族と

まんが立正佼成会入門

会員になったら

当番修行で自分を磨く

大聖堂や教会でお給仕をしたり、玄関で手を合わせて参拝者を迎えたり、掃除をすることを「当番修行」といいます。

みんな、だれかに言われて行なっているのではなく、自分を磨くために進んで実践しています。玄関

で参拝者に手を合わせるのは、相手を拝む行。掃除は自分の心のくもりを取りのぞく行です。

どのような修行でも、「やってあげる」ではなく、「させていただく」という気持ちを大切にしています。



豆知識

立正佼成会では、よく「させていただく」という言葉をつかう。これは自分の行ないを一步下がって言うときにつかう言葉だが、「仏さまや人さまを尊敬します。威張らず謙虚になります」という気持ちが込められている。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。

『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。
<https://www.koseishop.com/>

地球にやさしい生き方を

「地球温暖化」という言葉を聞いたことがあると思います。人間が自然環境に配慮せずに快適な生活を送ってきたせいで、大気の色度が上がっているのです。私たちは地球の恩恵を受けているのですから、自然環境を大切にしていかなければなりません。

仏さまは、生きものをむやみに殺さない、もの

を無駄にしないと教えています。まだ使える鉛筆やノートを捨ててしまえば、原料の木を無駄にすることになります。

私たち一人ひとりが考えなければならない問題ですね。



豆知識

冷房の温度を一度高く、暖房の温度を一度低く設定する。テレビを観る時間を減らす。買い物袋を用意する。電化製品の主電源をこまめに切る。風呂のお湯を洗濯につかう。地球温暖化防止のため、すぐにはじめよう。



仏さまとの深い縁

多くの仏を供養した人

立正佼成会開祖 庭野日敬



たとえば、お釈迦さまは、「智慧第一」と称えられた大弟子・舍利弗への「授記」に際して、「我昔汝をして仏道を志願せしめき」（譬諭品）と説かれ、舍利弗との過去世からの因縁をお説きになっています。

また、長年にわたっておそばに仕えた阿難に対する「授記」のくだりでは、「私と阿難は、過去世に空王仏のもとで、ともに仏になろうと発心をした。阿難は常に法を聞くことを願っていたが、私は常に教えの実践につとめた。それが、私が早く仏の悟りを得た理由である」とおっしゃっています（授学無学人記品）。そのお言葉を聞いて、阿難はたちまち、前世で立てた大願を思い出すのです。

こうして、前世から仏さまと尊い「縁」で結ばれているのは、舍利弗や阿難のような大弟子だけではないのです。私たちも同じです。私たちもまた、何度も生まれ変わるたびに、仏さまに会いたてまつってきたのです。

法華経の「法師品」には、こう説かれています。

「是の諸人等は已に曾て十万億の仏を供養し、諸仏の所に於て大願を成就して、衆生を愍むが故に此の人間に生ずるなり」

これは、非常に大事な一節です。

「この人たち」（つまり、私たち）は、前世で多くの仏さまを供養し、多くの人を救うという菩薩の願いをなしとげた人であり、本来は浄土に住むべきなのに、この世で

苦しむ人びとをあわれむ心から、苦難の多いこの人間の世界に生まれてきたというのです。

実際問題として、私たちはそういう前世のことはすっかり忘れています。けれども、私たちが忘れていても、心のどこかにそういう前世の記憶が刻みこまれているのです。

身近な例で考えますと、私たちは、生まれてこのかた、多くの人からいろいろな教えを受けてきました。両親はもちろんのこと、小学校や中学校の先生、そして町内のおじいさんやおばあさんからも、いろいろと教えられたはずですが、その教えをすっかり忘れてるのが常ですが、何かの折に、「ああ、あの人からこんなことを教わったことがあった」と思い出すことがあります。

「仏さまとの縁」というのもそれと同じで、もっともっと深いものなのです。そして、仮にそれを忘れていても、あるとき、機縁が熟して仏さまと尊い縁に結ばれていたことに気づくのです。

こう見てきますと、みなさんがいま、仏さまの教えに出会い、仏道に精進されているのは、前世において仏さまのご縁があったからなのです。それだけの「徳」を積んだ人なのです。どうか、そのことを心の底にかみしめていただきたいものです。そうすれば、

「仏さまがいつもそばにいて、見守ってくださっている」という、何ともいえない安心感をおぼえるに相違ありません。

庭野日敬平成法話集 1 『菩提の萌を発さしむ』 P.55-57



特別な一日

国際伝道部長
赤川 恵一

日本では暑い日が続いておりますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今月の会長法話には、開祖さまの最期のご様子が詳細に記されております。1999年10月4日の離別の日のことを、私は25年が経過した今も鮮明に覚えています。10時34分のご入寂の報は、すぐに教団中に流されました。当時普門館のWCRP日本委員会事務局に務めていた私は、心の中で黙とうを捧げながらも、息つく間もなく対外的にご親交のあった関係者に第一報を送るという慌ただしい作業に追われました。この日の夕刻、私は京都から弔間にお越しくださった天台宗の高僧を、開祖さまのご自宅までご案内する大役を頂戴しました。お迎えにあがった東京駅からタクシーを飛ばし、ご自宅に到着したのは、とっぷりと日が暮れて暗くなった6時過ぎでした。

弔間客で溢れるご自宅には、開祖さまの全身が見えるようにと、透明なガラスの蓋をしつらえた棺が置かれていました。いつもの見慣れたフロックコートにお纏姿の開祖さまは、生前と変わらず穏やかなお顔で弔間客の一人お一人に合掌され、ご挨拶をされているようで、そのお姿は私の心に鮮明に刻み込まれました。

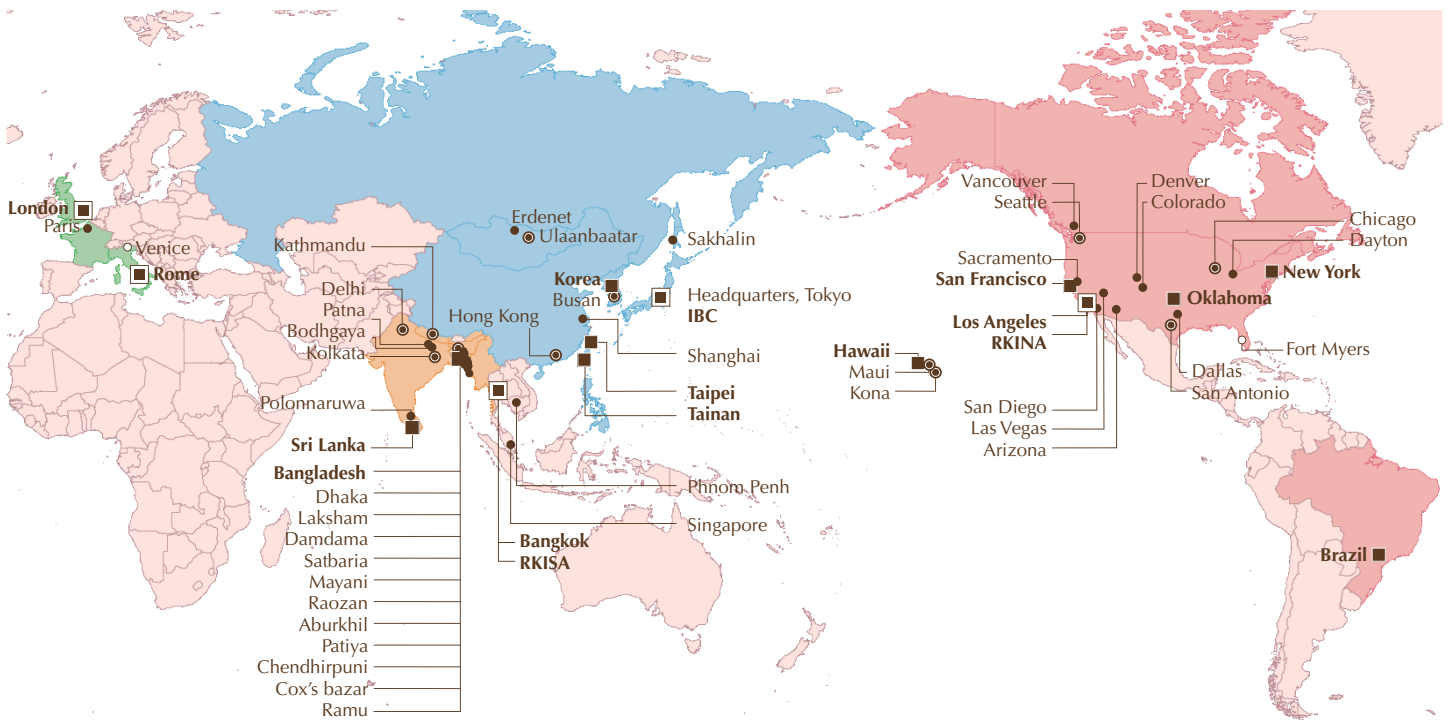
会長先生は、「生前の生き方や人柄が人びとの胸中で生きつづけることも、『不死』の一つの形」と教えてくださっています。私も開祖さまのように、ご縁をいただいたすべての人に、穏やかな心で合掌を続ける日々を過ごしてまいりたいと思います。



2024年4月6日、入林式を終えた海潮音科生と（法輪閣）



🌸 *A Global Buddhist Movement* 🌸



Information about
local Dharma centers



facebook



X

